かみすの医療に関する市民と専門家の懇談会

神栖市長
石田　進

神栖市の医療体制は、実に多様な主体のご尽力によりかたちづくられています。

医療機関や行政をはじめとする医療を提供する側、そして、市民、企業など医療を受ける立場の皆さんの参加と協力のもとに、各施策を進めることができております。

私が最も心がけていることは、様々な立場の利害や課題を受け止め、丹念に分析し、皆さんのベクトルを一致させる努力を惜しまないことです。その際には、市民や企業の思いに沿った方向に進むよう努めています。

神栖市地域医療体制検討委員会の提言では、医療体制の構築には市民の主体的参加と貢献が不可欠であり、そのための医療者と市民の相互理解の促進が求められました。

今回の懇談会では、市民の声の中からテーマを選定し、市民と医療の専門家が率直に意見を交換しながら掘り下げました。参加された皆さんの懇談会終了時の表情を見て、開催してよかったと感じています。

懇談会の内容は、この冊子のほか、市のYouTubeチャンネルで動画配信しておりますので、ぜひご覧ください。

委員長
永井　秀雄
茨城県立中央病院 名誉院長

私は長いこと医療の現場に立ってきました。私なりに一生懸命、よい医療の提供を心がけてきたつもりです。残念ながら自分ひとりでは力不足でした。医療を提供する医療者だけの努力では限界があるとも感じてきました。

よりよい医療には、医療を受ける人たちも一緒になって医療を考えることが大切ではないかと考えるようになりました。なぜなら、自分自身の、家族の、同僚の、知人の命に関わる話だからです。

医療資源がどれほど多くても市民の医療への関心がないと真によい医療は望めません。今回の懇談会はその点、大きな意義がありました。市民も一緒になって医療を考える一歩が踏み出せたからです。新しい医療を考える先駆けになったと思います。

懇談会の動画配信中
YouTube 神栖市チャンネル

かみすの医療に関する市民と専門家の懇談会開催の経緯

2019年　神栖市地域医療体制検討委員会からの提言

提言の中で、市民への分かりやすい情報提供や市民の主体的参加と貢献についての普及啓発が求められた。

2020年　冊子「かみすの医療」の発行

一方的な情報提供ではなく、行政や医療機関側も市民の求めているものや疑問に思う気持ちに応えられるように、市民の声を募集。

2021年　懇談会の開催　開催日 令和3年7月18日(日)　場所 神栖市役所会議室

寄せられた市民の声を懇談会で掘り下げ、動画の配信や冊子の発行を通じて公表。

懇談会のテーマ ～市民の声より～

冊子に寄せられた市民の声の中で、特に関心が高かった5つのテーマを選びました。

テーマ1 » かかりつけ医について …… 3ページ

テーマ2 » 適正受診について …… 4ページ

テーマ3 » 健康管理について …… 5ページ

テーマ4 » 救急受入のおことわり解消に向けて …… 6ページ

テーマ5 » コロナ禍における拠点病院のあり方 …… 7ページ

神栖市子ども・子育て会議委員
安藤　美穂

信越化学工業株式会社
管理部担当部長
古徳　正

土合西行政区区長
菅原　敏晴

神栖市スポーツ推進委員協議会推進委員
野中　富士子

神栖市シニアクラブ連合会副会長
吉川　尚子

委員紹介

神栖市地域医療体制検討委員会委員長
茨城県立中央病院名誉院長
永井　秀雄

神栖市長　石田　進

鹿島医師会会長
松倉　則夫

神栖医師会会長
武藤　隆雄

神栖市歯科医師会会長
石橋　英郎

神栖済生会病院院長
中村　慶春

白十字総合病院院長
鈴木　善作

鹿嶋ハートクリニック理事長
大城　恬瑩

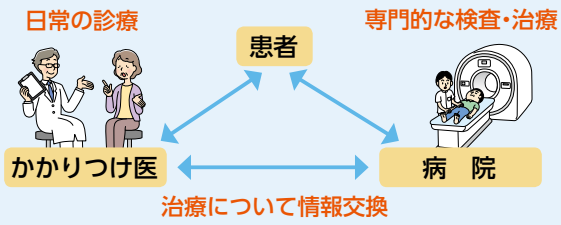
鹿島地方事務組合消防本部メディカルアドバイザー(脳神経外科専門医)
鶴岡　信

司会・資料説明：㈱システム環境研究所　大串　恵理

テーマ1 かかりつけ医について

かかりつけ医とは…健康に関することを何でも相談でき、必要なときは専門の医療機関を紹介してくれる身近にいて頼りになる医師

厚生労働省　上手な医療のかかり方.jpより



冊子で呼びかけたこと

①身近な医師・歯科医師を持ちましょう
②あなたに合った治療のアドバイスが受けられる
③専門的な治療が必要かの判断をしてくれる
④適切な医療機関への紹介が受けられる

かかりつけ医の意義とは

松倉委員　今は、病院の受診には、かかりつけ医の紹介状が必要な時代。日本のかかりつけ医は、得意分野を持ち優れているところがあり、一般的なこと以上に良い助言や指示を得ることができる。コロナ禍でも、かかりつけ医がいるからこそ円滑に対応できることもあるので、これを機会に、かかりつけ医が普及することを願っている。

国の動向

かかりつけ医機能の強化とともに、外来機能の明確化・連携を図る。

全世代型社会保障改革の方針（令和2年12月 閣議決定）

鈴木委員　日常的な症状にも、危険な病気が隠れている。何か起きたときに、誰に相談するか悩んでいたり、分からなくて不安なときもあると思われるが、そんなときこそ何でも相談できる身近なかかりつけ医を頼ってほしい。

〔懇談会では失神を具体例に、かかりつけ医の必要性を分かりやすく説明してくれました。詳細は動画をご覧ください。〕

石橋委員　定期的な歯科かかりつけ医の受診により、口腔内疾病の早期発見ができることが特長。必要に応じて、色々な疾患の専門医に紹介することができる。

普及推進への課題

安藤委員　学校では、子どもがけがをした際などには、まず、かかりつけ医はどこかと保護者に尋ねるという。移住してきた保護者は、どこの診療所を受診したらよいか分からずに、大きな病院を受診してしまうという側面があるようだ。

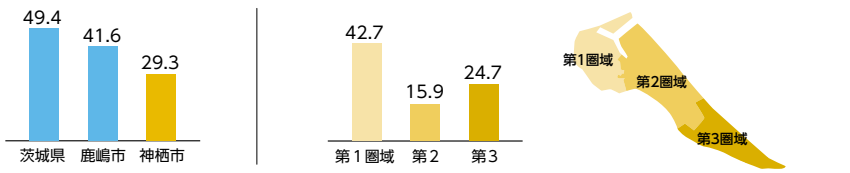
菅原委員　自分がかかりつけ医と思っていた医療機関から、自分がかかりつけの患者として扱ってもらえないことがあった。患者と医療機関側が、「かかりつけ」ということを共有できればよい。なんとなくということではなく、確認し合う手立てがあればよい。

市の診療所誘致対策は

石田委員　当市は県内や近隣市と比べ、かかりつけ医となる診療所が少なく、偏在もある。こうした課題に対応するため、開業資金貸与制度を創設するなど、診療所の誘致に努めており、市長就任後、6つの診療所が開業した。

今後は、かかりつけ医を探しやすい体制、医師と患者が認識を共有できる体制、かかりつけ医の機能を発揮できる体制づくりなど、今日の懇談でご指摘のあったソフト面での課題対応に努めていきたい。

神栖市の人口10万人あたりの診療所数



かみすの医療（令和2年11月）　※データは令和2年1月1日時点の診療所数

令和元年度新規事業 診療所開業支援事業
上限2,000万円の開業資金を貸与
（10年間の診療継続で返還を免除）

→ **平成30年度以降に開業した診療所数 6施設**

テーマ1のまとめ

- 国においても、かかりつけ医を普及推進する方針
- かかりつけ医からは的確な指示が得られ、メリット大。コロナ関連でも優位
- 何か起きて不安なときこそ、きちんとした所見のもとに相談に応じてもらえるかかりつけ医を頼ろう
- 歯科かかりつけ医の定期受診で口腔内疾病の早期発見や専門医への紹介が可能
- 転入者が迷わないで診療を受けることができる体制が必要
- 患者側と医療者側とで「かかりつけ」であることの認識を双方が共有し、確認できるきちんとした体制が必要
- 市では、かかりつけ医となる診療所の誘致に努めている

テーマ2

適正受診について

紹介状のはたらき

鈴木委員　紹介状の正式名称は「診療情報提供書」といい、患者に関する重要な情報が書かれている。紹介状がないと検査をやり直すことになり、適切な診療にたどり着くまでに時間がかかる。苦痛を伴う検査や治療を再度行わずに済むこともある。紹介状を受け取った病院は、治療の結果を紹介元の医師と情報共有するので、再び紹介元でスムーズに受診ができる。

中村委員　神栖済生会病院では、診療所との連携を重視しており、患者さんに紹介状をお持ちいただくようにお願いしている。また、当院での治療を終えた患者さんを診療所に紹介する「逆紹介」を進めることも地域医療に貢献する一つの方法と考えている。

救急車を呼ぶか迷ったら？

吉川委員　過去に夜間の急病を患い、あまりの痛さに吐き気や冷や汗が止まらなくなった。痛みに耐えられず、やむなく家族の運転で病院の夜間外来を受診したが、あの時の対応は正しかったと感じている。

鶴岡委員　市民が緊急性を判断するのは難しく、救急車を呼ぶべきか迷う人が多い。国や県では、緊急性を判断するための電話相談事業やアプリの配信をしている。まずはこれらを活用して、それでも迷ったときは救急車を呼んでください。

武藤委員　自分や家族の体調変化に気づいたら、診療時間内にかかりつけ医を受診することが自分達の身を守る最良の方法。夜間に症状が出た場合は、先程の電話相談事業などを活用してほしい。当地域の小児科に関しては、鹿嶋市にある夜間小児救急診療所（365日午後8時から午後11時まで）で外来診療を行うほか、神栖済生会病院で救急を受け入れていただいている。

多くの人に知ってほしい

野中委員　この懇談で、自分の症状を判断するための色々な方法があることを初めて知った。多くの人がこのようなシステムがあることを知り、利用できるようにすることが適正受診につながる。

永井委員長　緊急時サポートシステムは、広く広報した方がよい。多くの方に情報が行き届くことが、利用者にとっても医療機関にとっても有益。

診療情報提供書（紹介状）とは

分かること

1　**患者の基本情報**　氏名、年齢、性別、住所
2　**疑われる病名**
　主な症状や病状、それまでの治療経過や詳細
3　**紹介の目的**
　さらに専門的な検査や手術などの治療、入院等について
4　**治療に際しての必要な情報**
　アレルギーの有無、併発している病気や病歴など

適正受診でないものの例

①体調が悪いとすぐに大病院に行く
②急病でないのに、休日や夜間に受診する
③手遅れになってから受診する

適正受診がなされないと…

夜間の時間外受診や休日受診の増加 ➡
- **急病人が後回しにされてしまう**
- **医療従事者の過剰労働**

■迷ったときの緊急時サポートシステム

種類	名称	電話番号、QRコード	内容	
電話相談	茨城子ども救急電話相談	電話番号＃8000	24時間年中無休、急病時に医師や看護師等が対応	
	茨城おとな救急電話相談	電話番号＃7119		
	大阪中毒110番	072-727-2499	年中無休	洗剤等の誤飲、中毒について
	つくば中毒110番	029-852-9999	365日 9時～21時	
冊子	救急受診ガイド（家庭自己判断）	消防庁HP	症状と緊急度の目安を掲載	
	子どもの救急ってどんなとき？	茨城県HP	急病時の家庭での対処法、救急外来を受診する際のポイント、よくある質問を掲載	
	上手なお医者さんのかかり方	神栖市HP	医療機関を受診する際のポイント、市民へのお願いを掲載	
ホームページ	こどもの救急	日本小児科学会HP	具体的な症状と対処方法を掲載	
無料アプリ	Q助	消防庁HP	症状等から、緊急度に応じた必要な対応を表示。119番通報や医療機関の検索も可	

テーマ2のまとめ

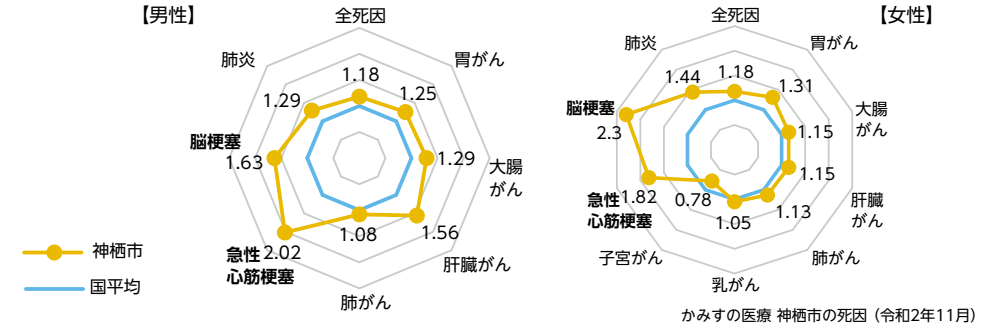
●**紹介状を持って病院に**
- 紹介状なしで病院を受診すると、定額負担が発生することがある
- 紹介状があると、同じ検査や治療を省略できたり、紹介元での再受診がスムーズになる
- 紹介・逆紹介の促進は地域医療体制の強化につながる

●**救急車を呼ぶか迷ったら**
- 電話相談事業等の緊急時サポートシステムが有効。行政は周知に努め、活用を促進すべき

テーマ3

健康管理について

神栖市の主な死因と死亡比の現況



かみすの医療 神栖市の死因（令和2年11月）

健康寿命を延ばす鍵は？

永井委員長　健康に関心を払い、なるべく病気にならないようにする。病気になっても早期に発見し、早期に治療できるようにする。

●健康な歯は、健康な体の源

石橋委員　健康な歯を持つ人は長生きすることが分かっている。歯磨き、一日3回を。80歳で20本の健康な歯を持つ。

心配なのは受診しない人

松倉委員　受診の良さをもう一度考えてほしい。久しぶりに受診する人ほど、がんなどの発見率が高いし、簡単な検査でもいろいろ分かることに気づいてほしい。

石田委員　健康診断を受けやすい環境整備が必要と考えている。

　各種がん検診、眼底検査、心電図検査を無料化した。

大城委員　検査結果は、複数の項目で異常が出た場合の方が危険。

　自覚症状がなく、精密検査を受けないでいると、ある日突然大きな症状が出ることも。

吉川委員　この年まで生きたから健康診断は不要と考えている人が多い。

　健康診断の予約手続きの煩雑さや交通手段の少なさから受診をあきらめている人がいる。

神栖市民の死因上位は、心筋梗塞と脳梗塞。どうやって防げばよいか？

●原因の8割は、生活習慣病

大城委員　予防できるものが多いことに気づいてほしい。今後の治療を想像して健診を怖くなっている人がいるが、軽いものは生活習慣の改善だけで予防できる。重いものでも検査で原因が分かれば、今後の病気が予測できる。日頃からかかりつけ医と健康相談してほしい。

石橋委員　歯周病菌は、心筋梗塞と脳梗塞の原因といわれている。

●予防のために運動を

吉川委員　シニアクラブ連合会では、シルバーリハビリ体操を推進し、多くの会員が楽しく取り組んでいる。連合会として、今後も高齢者の健康維持に努めていく。

永井委員長　茨城県でつくられたシルバーリハビリ体操の有用性を、高齢者に限らず、県内外に広めてもらいたい。

野中委員　かみすスポーツクラブでは老若男女問わず、誰もが健康維持のためにスポーツができ、参加者は笑顔で活動し、身体も心も健康になっていると思う。

いきいきと働き続けるために

菅原委員　会社勤務時は、会社が人間ドック受診を勧めていた。退職後は、神栖市の助成が受診のきっかけ。

古徳委員　健康保険組合では、本人と扶養家族の保障と健康づくりや健康増進をサポートするための事業、また、メンタルヘルスの管理を行っている。従業員がいきいきと働き続けるために、各自の健康管理の意識を高めていきたいと考えている。

テーマ3のまとめ

●健康寿命を延ばすには
- 健康に関心を払うこと、病気の早期発見、早期治療が鍵
- 生活習慣を改善する
- 歯の８０２０運動に努める
- 日頃から運動する

●健診を受けるメリットに気づこう
- 久しぶりに受診する人、精密検査を受けない人ほど重い症状が見つかる
- 市では、各種がん健診、眼底検査、心電図検査を無料で実施している

●健診希望者が予約しやすいシステムの整備や、交通手段の確保が今後の課題

テーマ4

救急受入のおことわり解消に向けて

冊子に寄せられた市民の声

①主人の救急搬送の受入先がなかなか決まらずに困った
②家族が急病の際に、市内の病院に受け入れてもらえず、千葉県の病院に自家用車で搬送した
③朝方の時間帯に市内の病院に電話したがつながらず、市外の病院に自家用車で搬送した

改善しつつある地域医療体制

①医療機関と救急隊の努力により、病院収容平均所要時間が2年連続で50分を切ることができた（平成30年、令和元年）
②神栖済生会病院は、令和6年度の新病院開設に向けて基本設計に着手した
③白十字総合病院は、急性期とあわせて回復期における医療体制づくりについても、市と一体となって進めていく方針
④鹿嶋ハートクリニックは、循環器医療の拠点として体制強化が進んでいる

市民・企業の思い

野中委員　知人の間にも不安の声が多い。かつて労災病院では、専門外の患者でも受け入れてくれたが、今は専門外だと最初から受け入れてもらえないことがあるようだ。救急受入のおことわりがなくなるよう、早期の体制整備をお願いしたい。

古徳委員　今、企業は世界や国内の競争に打ち勝つため、必死に努力している。そのような中、労働災害発生時に受入先が決まらず、千葉県に搬送されることが多々あり、当地域の医療体制が他地域に比べて劣っていると感じる。企業としては、県や市の協力のもと、再編統合による神栖済生会病院の拡充を図り、救急受入体制を構築して欲しい。

安藤委員　コロナ禍で里帰り出産が難しい状況の中、市内には産科が一カ所しかない。何かあったときに救急対応してもらえるのか不安という声がある。子育ては、妊娠から始まるので、気軽に相談できる体制や産科の充実を市でも考えていただきたい。

永井委員長　産科診療は、少数の医師だと負担が大きく、一定数の医師がそろわないと難しい側面がある。産科診療体制の検討は、国・学会・市民も加わって議論していくべき問題であるため、今後の重要な課題として捉えてほしい。

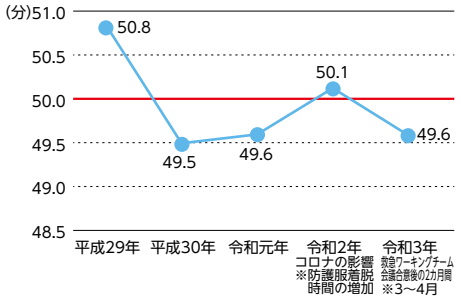
おことわり解消、努力が成果に

中村委員　救急医療の実践には、医師、看護師のみならず放射線科、検査科などの医療技術系職員や事務スタッフを加えた職員の拡充が不可欠。

今後は、救急医療のニーズの高い整形外科、脳神経外科の補充、高次救急施設との連携を含め、救急医療の実践を容易にする機能的な新病院を建設していく必要がある。

鶴岡委員　重症例はドクターヘリなどを活用し、他地域と連携して対応している。一方、受入可能な救急事案では、おことわり件数の半減や病院への搬送時間の短縮などの成果が出ているところ。これは、ワーキングチーム会議で重ねた協議検討や課題意識の共有、各医療機関の体制強化と救急隊の搬送能力を磨く努力が相まって実現したもの。今後も努力の継続を期待したい。

病院収容平均所要時間について



（鹿島地方事務組合消防本部管内）

大城委員　鹿嶋ハートクリニックでは、救急隊との循環器救急のホットラインを設置し、急性心筋梗塞、緊急カテーテル治療、不整脈、重度の心不全などの救急を受け入れている。当院の医師は、専門的で高度な手術を行うなど、修練してきたスキルを発揮して、全力で救急対応に励んでいる。19床という限られた病床数が課題だが、地域の力になれるよう、毎日工夫して病床を調整し、救急患者の受入に取り組んでいる。

体制強化に向けた市の方針

石田委員　医療問題は、市の最重要課題として取り組んでおり、関係機関の努力により改善しつつある状況を市民の皆さんにご理解いただきたい。今後も県と連携しながら、市が主体性を持って取り組んでいく。

市民が貢献できること

菅原委員　関係機関の取組みについて話を聞くことができたので、今後に期待している。救急においては、ひとり暮らしの方について、普段から様子を見たり、異変に気づけるようなお付き合いができる協力体制が大事。行政区に入っていただくことで住民同士がそのような関係を築いていければよい。

テーマ5

コロナ禍における拠点病院のあり方

地元企業から茨城県に提出した意見等

①若手社員が家庭を持つにあたり、医療体制への不安を感じており、転職する者も出ている
②医療体制は他と比べて劣っている点であり、まずは他の地域と同水準の医療体制を目指していくべき
③救急搬送を地元で受け入れてもらえず、千葉県まで搬送されるケースもあり、救急医療体制が不安

令和2年度　鹿島臨海工業地帯競争力強化検討会議より

冊子に寄せられた市民の声

①再編統合で、利用者の利便性が向上するような改革をお願いしたい
②コロナ禍で、院内感染のニュースを耳にすることもあり、市民にとって1つの拠点病院では不安。神栖済生会と白十字の2つの病院に頑張ってもらいたい

二つの拠点病院の整備

古徳委員　企業としては、白十字総合病院には、今後も地域密着型の拠点病院として、神栖済生会病院には、引き継いだ労災機能に加え、救急、災害拠点、専門医療機能を充実させた拠点病院として発展してほしい。

鈴木委員　白十字総合病院は、救急医療、高齢者医療、企業の産業医活動や健診を担う拠点病院として、より一層体制を整備し、診療所や介護・福祉施設との連携も深め、市民の声に応えられるよう頑張る。

中村委員　企業からの実効性の高い提案の実現に向け、一緒に考えていきたい。

新病院の目指す姿は、地域のニーズに合ったもの。

医療人材確保への挑戦

中村委員　新病院づくりを担う事務を含めた医療人材の確保が大事であり、皆の英知を集め、市を挙げた取組みが重要。

永井委員長　新しい病院は人を集めるチャンスにもなる。

市の若手医師きらっせプロジェクトの産業医研修会には、相当数の若手医師が集まるなど好評と聞くので、プロジェクトの充実を期待する。

石田委員　人材確保など難題解決に挑戦している。

大事なことは、交通や給料の問題など、色々な課題をこまやかに分析し、市と医療機関がベクトルを合わせ、連携して対処していくこと。

今後、多数誕生する県や市の修学資金を活用した若手医師に、確実に神栖市で就業してもらうためには、教育研修環境を整えることが不可欠なので、市内研修医療機関と協力連携して、若手医師きらっせプロジェクトを推進していく。

神栖医住　神栖市若手医師きらっせプロジェクト

古徳委員　企業としても、市の要請を踏まえ、産業医研修会など若手医師確保に貢献していく。

鹿島セントラルホテル周辺で医療者向け住宅を提供するなどの若手医師の確保につなげる対策を講じてはどうか。

神栖

さらなる協調を目指して

武藤委員　この地域では、神栖済生会病院、白十字総合病院、小山記念病院が一緒に前に進むことが肝要。3病院が密に連携し、地域医療を担っていただきたい。

松倉委員　限られた医療資源の中で、非効率を回避し、また、自動車による生活圏や患者奪い合いの懸念なども考慮し、神栖市、鹿嶋市を一体の地域として、各病院の特長を活かした補完し合う体制を目指すべきである。

鶴岡委員　鹿嶋ハートクリニックの循環器治療や小山記念病院の脳梗塞治療のように、分野によっては3次救急病院と同様の医療が提供されており、神栖市、鹿嶋市が一体となり総合病院としての対応が期待できるので、病院間の連携が重要。

石橋委員　口腔疾患で開業医では難しい場合があるので、拠点病院において専門の医師を採用し、歯科診療所と連携した体制を構築してほしい。

市民の理解と支援を

石田委員　永井委員長が「各病院がよく頑張っている」と評価くださったように、覚悟と挑戦の意識のもとに市と病院が連携し、体制づくりに一生懸命取り組んでいる姿を発信していく。市民の皆さんに理解を深めていただき、力添えをお願いしたい。

懇談会を通じて感じたこと

安藤委員

若手医師を呼ぶプロジェクトは本当に素晴らしい。
この勢いで、地域の方々の色々な活動も元気になってもらえればと思っている。

吉川委員

医療体制の充実のための、医療者の苦労、行政の苦労がよく理解できた。
医療体制整備の具現化には期間や費用といった難題があるが、市民が安心して暮らせる体制の一日も早い整備実現を期待している。

野中委員

医療従事者の皆さんの日々のご尽力と決意を聞き感謝している。
今後も、ぜひ頑張っていただきたい。

古徳委員

企業も厳しい環境の中で生き残りをかけて世界や国内で戦い頑張っているのと同じように、白十字総合病院や神栖済生会病院の両院長が、力強い発展に向けて尽力されていることがよく分かった。企業としても市と協力して医療機関の充実に貢献していきたい。 若手医師きらっせプロジェクトを含め全体として発展してほしい。

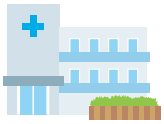
菅原委員

気候が良くリゾートのようなこの神栖の地に、先ほどの意気込みと気持ちを持って、ぜひ、素晴らしい病院づくりをお願いしたい。

永井委員長

今日の懇談会で、皆さんの意見をうかがえて大変よかった。
医療者が大変やる気になっていることを、市民、企業の皆さんに理解してもらえたのではないか。
医療人材の確保の問題があがったが、満たされているところは日本中、世界中のどこにもなく、それぞれの立場の中で最善を尽くしていくことが求められていると思う。
きちんとした信念を持って、一歩一歩やっていけば必ずや良くなるだろう。そのためには行政の支援も必要で、それを神栖市が考えてくれていることは今日理解していただけたと思う。
懇談では話題にならなかったが、若い人への医療教育は重要である。 将来医療従事者にならなくとも、一般市民、一般県民、一般国民として医療に関心を持つようになれば、弱者への配慮にもつながる。そのようにして、これからの少子高齢化の時代を生き抜いていってほしいと思っている。
この地には、小学校や中学校での医療教育に取り組みたい若い医師が少なからずいる。
そういう人たちの気持ちをとらえて、皆が支え合うコミュニティをつくっていってほしい。一般市民、若い人も引き込んで、皆で、魅力ある医療体制ができれば非常にうれしい。
常に理想を持っていなければ、先に進めない。新しい明るい希望を持って当地域の医療が発展することを願っている。今日は、懇談会に出席して本当によかった。ありがとうございました。

寄せられた市民の声のうち、今回の懇談会で取り上げることができなかったご意見については、神栖市ホームページで紹介しています。



Q1　障がい者への医療提供体制の確保について
Q2　市内の在宅医療提供体制について
Q3　市内のオンライン診療の状況について
Q4　ITやAIなどデジタル化の活用について
Q5　千葉県との広域連携について

かみすの医療懇談会
編集　神栖市健康福祉部地域医療推進課
〒314-0192　茨城県神栖市溝口4991-5　TEL 0299-77-8207　令和3年10月発行